

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	特定非営利活動法人 グループホームひまわり		
所在地	山口県長門市油谷伊上字中上り野2238番		
電話番号	0837-32-1515	事業所番号	3591100031
法人名	特定非営利活動法人ひまわり		

訪問調査日	平成 20 年 11 月 21 日	評価確定日	平成 21 年 1 月 23 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	9 人	常勤	5 人 非常勤 4 人 (常勤換算 7.7 人)

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	~ 1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 30,000 円	敷金	無 円
保証金	無 円	償却の有無	無
食費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 食費に含む
その他の費用	月額 16,500 円		
	内訳 光熱水費		

(4) 利用者の概要 (10月27日現在)

利用者数	9 名	男性 名	女性 9 名
	要介護1	4	要介護4
	要介護2	2	要介護5
	要介護3	3	要支援2
年齢	平均 83 歳	最低 78 歳	最高 88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 友近内科循環器医院 歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

利用者一人ひとりの思いや希望に添った支援をしておられ、野菜づくり、編み物、針仕事、詩吟、ぬり絵、貼り絵、俳句、踊りなどの楽しみごとや、毎日、何度も散歩に出かけ、花を見たり、寺参りをしたり、柿もぎをしたり、近くにいるボニーに会いに行ったりすることで、利用者の気晴らしや外出の支援をされています。食事は三食とも、事業所で調理されています。畑でみんなで作った野菜を収穫し、皮むきをしたり、家族が持参した新鮮な魚を調理したり、食事の準備から後片付けまで利用者と職員が一緒になって行い、その時間は、利用者にとって、いきいきとできるひとときとなっています。

(特徴的な取組等)

事業所が行なわれる消防訓練や法話会などの行事に、近隣住民の参加を呼びかけ協力が得られています。利用者も自治会の行事に参加されたり、散歩や買い物などで、地域の人と交流できる機会を多くし、利用者が地域の一人として暮らせるよう支援されています。家族の面会が頻回にあり、定期的に外泊される利用者もあります。家族の面会時に撮られた利用者と家族の交流写真が大きく印刷され、各部屋に掲示しており、家族と利用者の気持ちをつなぐ効果的な役割りを担っています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

前回の評価結果を受けて、評価の意義の理解、全職員での評価の取り組み、危険物の保管方法、災害時の地域への働きかけ、避難場所の確認など、改善に取り組みました。

(今回の自己評価の取組状況)

評価の意義を理解しておられ、全職員で評価に取り組み、職員会議で項目ごとに話し合い作成されています。サービスの質について話し合う機会とし、実践につなげるよう努力しておられます。

(運営推進会議の取組状況)

民生委員、自治会長、市高齢障害課職員、家族、事業所職員のメンバーで2ヶ月に1回開催されています。事業所の行事や状況報告、外部評価の結果報告等をして意見交換をされ、出された意見をサービスに活かすよう取り組まれています。

(家族との連携状況)

毎月、担当職員が、利用者一人ひとりの暮らしぶりの写真や健康状態を知らせる個別の家族だよりを作成し、送付されています。家族の面会が多く、その都度、状況を伝えたり、要望や意見を聞いたり、電話で連絡を取られています。

(地域との連携状況)

自治会に加入され、地域の花見、小学校のどんど焼き、運動会、草取りなどの行事に参加されたり、小学生の訪問を受けたりされています。事業所が行なわれる法話会や消防訓練等に、近隣住民への参加を呼びかけられ、地域の人との交流に努めておられます。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>住み慣れた地域での暮らしを支えるために、家庭的な雰囲気の中で自立した日常生活を営むとともに、地域住民との交流、ふれあいをうたった理念をつくっている。</p>	
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を玄関に掲示するとともに、職員に配布し、ミーティング時、朝の申し送り等で確認して、共有し実践に向けて取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>自治会に加入し、地域の花見、小学校のどんど焼き、運動会、草取り、行事への参加や小学生の訪問を受けている。事業所が開く法話会、消防訓練等には、近隣住民への参加を呼びかけ、地域の人との交流に努めている。散歩時には野菜をもらったり、柿もぎをさせてもらったり、隣近所の人と顔なじみの関係ができています。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>管理者が評価の意義を説明し、全職員で自己評価に取り組み、職員会議で項目ごとに話し合い、作成している。前回の外部評価の結果については職員会議で話し合い、(評価の意義の理解、全職員での評価の取り組み、危険物の保管方法、災害時の地域への働きかけ、避難場所の理念)など、できるところから改善に取り組んでいる。</p>	
5 (10)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>民生委員、自治会長、市高齢障害課職員、家族、事業所職員のメンバーで、2ヶ月に1回開催している。事業所の行事や状況報告、外部評価の結果報告等をし、意見交換をして出された意見をサービスに活かしている。</p>	
6 (11)	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市の担当課の職員とは、日頃から利用者のことについて相談をし、助言を得て、問題解決に取り組んでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期 待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、担当職員が利用者一人ひとりの暮らしぶりの写真や、健康状態等を知らせる個別の家族だよりを作成し送付している。家族の面会は多く、その都度、利用者の状況を伝えたり、電話等で報告している。ウェブサイトを利用者の近況の写真をフォトアップし、家族が見られるようにしている。メールでも知らせている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	面会時には、家族が意見を言いやすいように雰囲気づくりに努力している。苦情受け付け窓口、担当者、外部機関を明示し、意見箱を設置している。第三者委員の選任や苦情処理の手続きを定めていない。	・第三者委員の選任 ・苦情処理手続きの明確化
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	9名の職員を確保し、日中は4人体制で利用者の状況の変化や要望に応じて、柔軟に対応している。職員の急な休みの時は、職員の交代で勤務調整に努めている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	馴染みの職員が対応することの重要性を職員全員が認識しており、離職がやむを得ない場合は、引継ぎや紹介の仕方に配慮して、利用者のダメージを防ぐようにしている。面会時に職員について知らせている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修は、段階に応じて計画的に受講できるよう、勤務の一環として研修受講の機会を提供している。受講内容は毎月の会議で発表すると共に、研修報告書を全職員に回覧し、共有している。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	全国グループホーム協会に加入し、情報を得ている。運営者は他のグループホームの管理者等と交流している。県内にある連絡会等には参加していない。地域の同業者との交流はない。	・近隣同業者との職員交流

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前に本人や家族に事業所を見学してもらい、ホーム内の雰囲気に触れてもらい、本人や家族と相談しながら馴染んで入居できるよう支援している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>調理、後片付け、清掃、野菜づくりなど一緒にしながら、利用者には魚のさばき方や、料理の味つけ、鍬の使い方など、いろいろ教わり、学び、支えあう関係を築き、利用者が和やかな生活が送れるよう支援している。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>入居時に聴きとった生活歴や、日々のかかわりの中で会話や行動から利用者の思いや意向の把握に努め、困難な場合は家族から聞くなどして本人本位に検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>日々の関わりの中から聴きとった本人の意向、面会時等に聴いた家族の意見や要望を参考にし、月1回開催するケアカンファレンスで課題について職員全員で話し合い、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>介護計画の期間は6ヶ月であるが、3ヵ月毎にモニタリングをして、変化があれば見直しし、期間内であっても状況の変化に応じて必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>受診の送迎や付き添い、図書館や外食など個別の外出支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医や、協力医と連携をとり、希望する利用者には受診の送迎や付き添いを行い、適切な医療が受けられるよう支援している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	利用者の状況に応じた支援方法を、家族、医師、職員、利用者が話し合い決めている。運営推進会議でターミナルケアを要望する家族の意見があり、検討している。	・重度化や終末期に向けた方針の検討
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	利用者一人ひとりを尊重し、言葉かけや対応に配慮した支援をしている。気になる言葉づかいは職員同士で注意しあっている。記録などの個人情報の取扱いは特に気をつけている。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	散歩は1日に何度もする事もあり、今では散歩コースが出来て利用者の毎日の楽しみになっている。買い物、野菜づくり、詩吟、俳句、踊りなど、一人ひとりがどのように過ごしていきたいか、思いや状態を大切に、その人らしい暮らしができるよう支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	事業所で作っている野菜を収穫し、皮むきをしたり、新鮮な魚を料理したり、食事の準備から、後片付けまで利用者と職員が一緒になって行い、その時間は活気のあるひとときになっている。食事の味つけもよく、地域の人から漬物の差し入れがあったり、利用者はみんな完食し、刺身などの時には、おかわりする利用者もある。職員も同じ食事を一緒に食べながら、楽しめるよう支援している。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日13時30分～16時まで可能であり、利用者の希望や状況、タイミングに合わせて、ゆっくり入浴を楽しめるように支援している。入浴を拒む利用者には無理強いせず、言葉かけなど工夫している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	野菜づくり、編み物、針仕事、詩吟、ぬり絵、貼り絵、俳句、踊りなどの楽しみごとや、花を見たり、寺参りをしたり、ポニーに会ったりできる散歩は利用者の気晴らしになっている。食事の準備から後片付けまでの、一人ひとりが活躍できる場面があり、利用者を活気づけている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩を1日に何度もすることもあり、利用者の希望に添って外出支援をしている。散歩に参加できない利用者は、屋外に出て花を眺めたり、会話をして戸外の空気が楽しめるよう支援している。天候の良い時にはドライブや外のレクリエーションを楽しむこともある。買い物は週に2~3回出かけている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	マニュアルを整備し、職員は正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関に鍵をかけないで、利用者の自由な暮らしを支援している。地域の協力も得られている。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルがあり、事故・ヒヤリはつと報告書に記録し、原因を見極め、改善策を講じて全職員で共有し、事故防止に取り組んでいる。転ばん体操、腰痛体操、歩行練習などして一人ひとりの転倒防止に努めている。危険物の保管に配慮している。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルはあるが、利用者の急変や事故発生時の応急手当や初期対応の訓練はしていない。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルがあり、年2回消防署の協力で、火災避難訓練を実施している。地域へ協力を得られるよう働きかけている。避難場所を確認し、利用者の散歩コースにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の情報を個人ファイルに綴じ、職員は把握している。薬はその都度、手渡しし、服用を確認している。利用者の症状に変化があるときは、必要な情報を医師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、職員の声かけや見守りで、一人ひとりに応じた口腔ケアの支援をしている。義歯や歯ブラシの清掃、消毒、保管の支援をしている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分摂取量を把握し、一人ひとりに合った支援をしている。全員が毎食完食されている。	・栄養士による助言
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルがあり、感染症予防を実行している。インフルエンザの予防接種を利用者、職員全員が実施している。台所用品は毎日消毒し、食材の管理については衛生チェック表により行なっている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	落ち着いた話のできる畳のスペースがあり、壁には行事や日常の利用者の写真、金子みすずの掲示物などが飾られ、玄関には季節の花が生けられている。台所での調理の音、話し声、笑い声が聞こえたり、おいしそう匂いがしたり、生活感が感じられる。ホーム内の温度や明るさ、音、換気に配慮している。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具などを持ち込み、利用者の個性のある居室にし、居心地良く過ごせるよう支援している。利用者の写真や面会時の家族との写真を大きくして掲示しており、利用者によっては、写真に話かけたりして、落ち着ける場となっている。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	特定非営利活動法人グループホームひまわり
所在地	山口県長門市油谷伊上字中上り野2238番
電話番号	0837-32-1515
開設年月日	平成 18 年 12 月 1 日

【サービスの特徴】

「みんなちがってみんないい」金子みすずさんの詩が、みんな大好きです。ゆったりと楽しく自由にありのままに残された力で暮らしの喜びと自身をいつもと同じ馴染みの環境や、馴染みの人々と暮らしの周辺には、小学校、お地蔵様、神社、お寺など思い出がある地域で暮らして行く事の潤いや豊かさは、地域を離れてしまったらもう得られないものです。家庭的な雰囲気の中で「してあげる介護よりも出来る事を支え、一人ひとりのペースに合わせて自立支援させて頂いております。又ホーム側の畑では、季節折々の花や野菜作りをしており季節感を満喫しております。

【実施ユニットの概要】 (10月17日現在)

ユニットの名称	(NPO)グループホームひまわり			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの利用者数	9 名	男性	名	女性 9 名
	要介護 1	4	要介護 4	
	要介護 2	3	要介護 5	
	要介護 3	2	要支援 2	
年齢構成	平均 83 歳	最低 78 歳	最高 88 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	自己評価の意義や目的を職員へ伝えると共に、全員で自己評価に取り組む。点検の経路は、まず点検しやすい項目から着手し情報を共有しながら職員の意識合わせを行った。
評価確定日	平成 20 年 10 月 17 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		
7 (3)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		<p>認知所のケアの啓発や、地域の方から気軽に相談など受け入れられるよう取り組んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は、全職員で行いサービスの質向上に努めている。外部評価の結果は、職員会議で報告し改善に向けて検討や実践に繋げる等の努力をしている。	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	前回の運営推進会議で取り上げられた検討事項や提案事項があれば、その経過を報告し合い、一つひとつ積み上げて行くようにしている。	
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	事業所だけで抱え込まず、市担当者のアドバイスを受けながら考え方や、方策などの課題解決への助言を願う取り組みを行っている。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	地域の事業者協議会が主催する成年後見制度の研修に参加している。	
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	全職員が虐待防止関連法は学んでおり、高齢者虐待防止法に関する理解が必要と思う。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時において不安や疑問点など、その場において十分な説明をしており、事業所のケアに関する考えや取り組み等を説明し、利用者の状態変化により契約解除に当たる場合は、家族を交え対応方針を相談している。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の言葉や態度から思いを察する努力をし利用者本位の運営を心がけている。	
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、担当者職員より家族便りにて現在の報告を行い、他にウェブサイト近況フォトアップ、メール、電話などをして様子を知らせている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	利用者からの開示は現在までない。ご家族からの開示には応じている。		
18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族には、何でも伝えてもらえるように雰囲気作りはしており、運営推進会議などで外部の人に家族などが意見など出来る場は設けており、相談や苦情を受け付ける窓口も設置している。		
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃からコミュニケーションを図るように心掛けると共に、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。		
20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の自由な暮らしを出来る限り支えられるよう利用者の状態やペースに		
21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者家族への信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応することが大切と考えており、離職がやむ得ない場合も、引継ぎの面などにおいては努力している。新しい職員が入る場合も利用者にはきちんと紹介している。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所外で開催される研修には、なるべく多くの職員が受講できるようにしており、又、それらの研修報告は、毎月の会議で発表してもらい研修報告書を全職員が回覧出来るようにしてある。		
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	多様な職員配置に心掛けている。		
24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他のグループホームへの見学や事業所外の人材の意見や経験をケアに活かしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている。		
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の思いに寄添いながら、日々の出来事や気付きの情報共有に努め、本人と一緒に支える為に、家族を同じ様な思いで支援していることを伝えている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	外出や外泊で家族と一緒に過ごすことを勧めたり、行事に家族を誘うなど、より良い関係の継続に努めている。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの知人、友人の面会を促したり、話題に持ち出したりドライブ等で馴染みの場所に行ったりしている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個別に話を聴いたり、皆で楽しく過ごす時間や、気の合う者同士で過せる場面作りなどを行い、利用者同士の関係がうまく行くように支援している。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所の中には、今も相談を持ち込まれる方が居り、出来る限りの支援は心がけ、時折訪問もしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中で声を掛け把握に努めている。言葉や表現行動などから真意を測ったり確認するようにしている。		
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	居宅事業所やサービス事業所等からの情報提供、家族、本人自身の語りや、知人等の訪問時などで少しずつ把握に努めている		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	それぞれの生活リズムや習慣の把握に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日頃の関わりの中で思いや意見を聞き反映するようにしており、課題となる事を職員全員で話し合い、ケアプランの作成に活かしている。	
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	本人の状態に変化が生じた場合、検討見直しを行っている。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別のケース記録に細かい日常の様子を記入し、食事摂取、水分、排泄、本人の言葉などを記録し、介護計画の見直しに活かしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、家族の状態に応じて、通院の必要な支援は、柔軟に対応している。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	普段より消防署との連携を取っている。	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	今後必要と思う。	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	送迎付き地域の美容院の利用。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>入居者一人ひとりの違いを尊重し、返答能力に応じた質問方法での対応に気を付けているが、職員の感性の問題もあり十分とは言えない。</p>	<p>職員の意識向上を図り日々の振り返りの機会を作りたい。</p>
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員が決め付けず、入居者一人ひとりが自分で選べるよう選択肢の提案を心掛け場面作りに努めている。</p>	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>個々の生活暦を把握した上で、その方らしい暮らしの中で可能な家事に結び付け、出来る力を大切にしている。</p>	
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>買物や散歩など、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>美容院に行きたい方は、送迎のある美容院へ季節、その日の体調、行事に合わせ、その方らしいオシャレが出来るよう支援している。</p>	
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>ホームで作っている野菜を利用者と一緒に収穫したり、皮むき等もお願いしており、片付け等も利用者と共に行い、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来る雰囲気作りも大切にしている。</p>	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>おやつの時など、食べたいおやつ飲み物を選んで預けるよう支援している。</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>オムツをしている場合でも、体調、状態に合わせてパンツに切り替えたり、排泄パターンをチェックし排泄誘導に心掛けている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73 家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	花見やクリスマスなど行事には、家族の方の参加を促している。		
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27) 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	徘徊などがある場合、一緒に移動したり見守り体別を十分にし、様子の把握に努めている。		
75 (28) 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員の見守りを徹底し、日中の玄関の施錠はせずに取り組んでいる。 居室は昼夜問わず施錠はしていない。		
76 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は、入居者のそばで記録など行い、入居者の状況の把握に努めている。 夜間は定期的な巡視を行って安全に配慮している。		
77 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々の状態に応じて対応している。 異食行為のある方には、危険物を取り除くことや、保管管理の必要なものは厳重に管理している。		
78 (29) 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハットを記入し原因を見極め、職員の共有認識を図っている。今後の対策についても検討している。		
79 (30) 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署より年2回、来設して頂き訓練を行ったが、定期的な取り組みがなされていない		
80 再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故が発生した場合、事故報告書、ヒヤリハットに記録し再発防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関には、季節の花を生けたり、腰掛できるようにベンチを置き、ゆっくりできるスペースを確保している。	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	家事で伝わる生活の音が聞こえ、食事前には食欲をそそる匂いが運ばれ、玄関ホールには、いつも季節の花が飾られているよう心掛け、生活感、季節感など五感に働きかけている。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	独りになれる場所としては、居室のみだが、居場所作りとして空いたスペースには、ソファを置いたり、皆がなごめる和室も用意してある。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の使い慣れたものや、好みの物を生活スタイルに合わせ用意し居心地良く過ごせるよう工夫している。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	天気の良い日は、窓を開け風を通し換気に心掛けている。温度調整も利用者の状況に応じて温度差がないよう気を付けている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	出来る限り自立した生活を送って頂けるよう、手摺り、段差解消、歩行器などが配備してあり安全確保と自立への配慮をしている	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	個々の生活の中で、混乱を招く物、環境に対して原因である物を取り除くなど工夫している。	
97	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭に花を植えたり、畑のスペースを確保、利用者が日常的に楽しみながら活動できる環境を作っている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと <input type="checkbox"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように <input checked="" type="checkbox"/> たまに	数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input checked="" type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない